



東地中海地域ニュース

イスラエル：オルメルト首相の訪露及びイラン核問題に関するイスラエル要人の外交日程 (10月18日付現地報道)

1. オルメルト首相とプーチン露大統領の会談 (18日付首相府発表)
 - (1) 10月18日夜、モスクワでオルメルト首相はプーチン露大統領と3時間会談し、ロシアがイスラエルの安全保障上の利益を重視しながら地域の安定要因となる方法を含み、地域及び両国間の問題について協議した。プーチン大統領は、ロシアはイスラエルの安全保障上の利益を地域政策における重要な要素とみていることを明確にした。
 - (2) 両者は、プーチン大統領のイラン訪問を受け、イランの核問題についても協議した。オルメルト首相は、プーチン大統領に対し、同問題に対するイスラエルの立場を詳細に説明し、イランのウラン濃縮及び核兵器装備の試みを停止しうる措置の重要性について話した。
 - (3) 両者は、イスラエルとパレスチナとの外交的プロセスに関する評価について意見交換した。オルメルト首相は、ロシアもカルテットの一員として参加する予定の秋の中東和平国際会議(注:11月にブッシュ米大統領の主催により米国で開催される国際会議)が成功するようコミットしていることを強調した。プーチン大統領は、パレスチナとの和平交渉におけるオルメルト首相の努力を賞賛すると共に、ロシアは和平プロセスを全面的に支持し、中東和平国際会議の成功に向けて取り組みを進めることを約束した。
 - (4) 両者は、この他に、グローバル・テロリズムの脅威とその対策についても協議し、両国の相互利益の推進のために緊密な連携を維持していくことで合意した。
2. イスラエル要人の外交日程 (19日付報道)
 - (1) オルメルト首相の訪露後も、イランへ厳しい制裁を課すために、国連安保理国に対し圧力を加えるというイスラエルの努力は続く。21日、オルメルト首相はフランスを訪問し、サルコジ仏大統領と会談する予定。又、同首相は23日に英国を訪問し、ブラウン英首相とイランの核問題等について会談する予定。
 - (2) 20日にはリブニ外相が中国を訪問し、23日にはリーバーマン副首相兼戦略企画相がドイツを訪問する予定。又、約2週間後、戦略対話担当のモファズ副首相兼運輸道路安全相が同問題の協議のために訪米する予定。
 - (3) 18日、ワシントンにて、バラク国防相がハドレー米国家安全保障担当補佐官と約1時間会談し、イランの核問題及びパレスチナとの政治プロセスについて協議した。同会談中、ブッシュ米大統領も訪れ、バラク国防相は、ブッシュ大統領に軍事援助増額の決定について謝意を表明した。